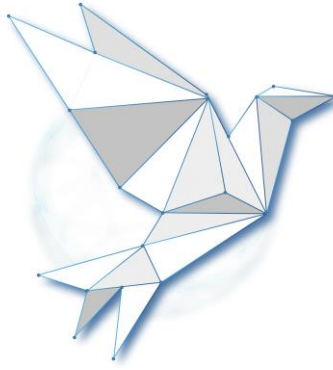




【プレスリリース】 平和のための AI 倫理：ローマからの呼びかけにコミットする世界の宗教

広島、日本- 2024 年 7 月 9 日

「すべての宗教が、この地球上に住む人類のために、そしてすべての生あるものの共通の家である地球そのものの保全のために、協力するよう求められています。このことは私たちの生活のあらゆる側面に関わりを持ち、それゆえに技術の進歩によって私たちにもたらされるすべての新たなツールにも関わりがあることなのです。人工知能はそのひとつです。応用の可能性が無限に広がる素晴らしいツールであり、それが設計された瞬間からその可能性を良いことに役立てるよう導くことができるし、そうしなければならないのです。これは私たちに共通の責任であり、この努力を共有していくことによって真の兄弟愛を再発見することができます。広島という最も象徴的な場所で、私たちは平和を強く願い、テクノロジーが人々の間の平和と和解の原動力となるよう求めます。私たちはここに共に立ち、共に立って共に行動することが唯一の解決策であると声をあげて訴えます」

これは 7 月 9 日、「平和のための AI 倫理」の初日を迎えるにあたり、教皇庁生命アカデミー会長のヴィンチェンツォ・パリア大司教が、述べた言葉である。明日 7 月 10 日には、世界のほとんどの宗教を代表する 16 人の宗教指導者が「AI 倫理のためのローマからの呼びかけ」に署名する。

開会挨拶では、他の共催団体の指導者たちからも、意義深い言葉が語られた。

WCRP/RfP 日本委員会理事長の戸松義晴師は、「WCRP/RfP 日本委員会の使命は、私たちが共有する精神的目標に基づき、社会全体における個人や組織の平等と相互尊重を促すことです。近年の人工知能（AI）の進歩により、このような取り組みの助けとなる強力な新しいツールが生まれましたが、他の目的に使用された場合、その努力を大きく損なう可能性もあります。私たちはこれらの課題を認識し、すべての人を包摂し、相互尊重という使命を果たすために尽力しています」と語った。

アブダビ平和フォーラム会長で UAE ファットワ評議会議長のシェイク・アブドラ・ビン・バイヤ師は次のように表明した。「人工知能の発展には、権益や害悪、それに利益が入り混じるために、その状況に対処し、システムや製品が技術的に高度なものであるだけでなく、道徳的に健全なものであるようにするには、協力、連帯、共同作業が必要となります。これには集団的な努力と継続的な取り組みが欠かせません。そうすることによって、私たちは、AI が善の力となる未来、すなわち、テクノロジーの成果がより寛容で平和な、そして良識ある世界を築くために活用されるという未来への道を開くことができるのです」

イスラエル諸宗教関係首席ラビ委員会委員のラビ・エリエゼル・シムハ・ワイズ師は、「信仰を持つ個人として、私たちはAIの追求に道徳的明快さと倫理的誠実さを吹き込むという独自の責任を担っています。AIを単なる進歩のためのツールとしてではなく、神とのつながりを深め、精神的探究を強化するための道案内として活用しましょう。AIを通じて、私たちは医学研究を前進させ、教育へのアクセスを向上させ、そして新たな目的意識と信念をもって社会的課題に取り組むことができるのです」と語った。

広島を開催地として選択したのは、深い象徴的な意味がある。なぜなら、広島ほど破壊的技術がもたらした結果と、恒久的な平和の探求の必要性を証明できる都市は他にないからである。

2日間にわたって開催される「平和のためのAI倫理」では、世界の主要な宗教が一堂に会する。そこでは、テクノロジーの進歩が容赦なく加速していく中、人間の一人ひとりの尊厳と地球全体を守る技術開発を求める声を、社会の中で現実のものとするために宗教が極めて重要な役割を果たしていることを強調する。

このことは、アルゴレシックス（algorithcs）、すなわちAI倫理の開発と適用が、設計上、つまり設計の段階から欠くことのできない絶対に必要な要素となっはじめて可能になることである。

教皇庁立グレゴリアン大学のパオロ・ベナンティ教授（技術倫理学教授）が、AI倫理のためのローマからの呼びかけ「広島追加文書」を発表した講演は注目に値する。この文書は、生成AIの倫理的ガバナンスの必要性に焦点を当てたものであり、これは生成AIの可能性が人類の善のために活用されるよう、すべての関係者が絶え間なくコミットしていかなければならない継続的かつ相互作用的なプロセスである。

出席した大手ハイテク企業のリーダーたちからは、「ローマからの呼びかけ」の原則が、実際に技術業界で適用され、AI生産者たちが責任を共有していることが証言された。

マイクロソフト社の副会長兼社長であり、この呼びかけの最初の署名者の一人であるブラッド・スミス氏は「人類の歴史に深く刻み込まれた広島は、人類が生み出したテクノロジーをすべての人間と私たちの共通の家である地球に役立つものとしていくために、人の心を動かすにはおかない影響力をもつ」と語った。

IBMのシニア・バイス・プレジデント兼リサーチ・ディレクターのダリオ・ギル氏は、「AIはすべての国、産業、価値体系に影響を及ぼすテクノロジーであり、その恩恵は全人類にインパクトを与えるはずである。IBMが、志を同じくする東洋の宗教指導者たちとともに「AI倫理のためのローマからの呼びかけ」に新たにコミットメントできるのは大きな誇りである。このコミットメントを実行していくことが何よりも重要であり、AIアライアンスのような取り組みを通じて、開発者、研究者、業界リーダー、支持者が団結し、技術革新を開かれたものとし、安全かつ責任あるAI開発を、透明性を持って推進していく」と述べた。

Ciscoのアジア太平洋・日本・中国地域プレジデントのデブ・ウェスト氏は次のように述べた。「Ciscoはローマからの呼びかけに参加できたことを誇りに思い、できる限り幅広い分野から参加を確保することが、責任あるAIへの世界的アプローチに向けた基本的なステップであると考えている。Ciscoは40年にわたり、世界中の人々や組織をつなぐネットワークを構築してきたが、今日ではAIの能力強化に向けたネットワーキングとセキュリティのインフラを構築している。そして、AIを活用してすべての人に包摂的な未来をもたらすという大きな野望に引き続き取り組んでいく」

人工知能のリスクとメリットについて多角的な視点を共有し、イベントをより豊かなものにした著名な講演者の中でも、注目すべきは、アマンディープ・シン・ギル国連事務総長技術特使で、基調講演で次のように語った：「AI 倫理のためのローマからの呼びかけは、グローバルな AI ガバナンスに必要な精神を具現化している。それは未来サミット（補足注：国連が 2024 年 9 月に開催予定）を控えた重要な時期に発表され、多様な宗教的視点から倫理的で人間中心の AI という共通のビジョンとしてまとめたものである。この呼びかけは、AI ガバナンスをグローバルで包摂的なものとし、万人のための平和と人間の尊厳の促進に向けたものとするように、という国連事務総長の取り組みと一致するものである」

また、国連食糧農業機関（FAO）駐日連絡事務所の日比恵理子所長の話も非常に貴重であり、次のように述べた。「人工知能は、農業慣行の最適化、サプライチェーンの効率化、データ主導のイノベーションとアプローチによる小規模農家のエンパワーメントを通じて、農業食糧システムの変革を加速し、持続可能な開発を達成する大きな可能性をもたらすものである」

「平和のための AI 倫理」会議は明日 7 月 10 日も続き、世界の宗教指導者たちによる「ローマからの呼びかけ」への署名式が行われる。

原爆被爆者の証言を聞いた後、参加者は記念公園まで徒歩で行き、慰霊碑を訪れ、犠牲者を偲んで花を捧げる。その後、平和の灯と原爆の子の像を通して式典会場へと歩みを進める。

「エリザベト音楽大学」（広島市）のフルート・カルテットによる演奏で、いよいよ「ローマからの呼びかけ」への署名式が開幕し、各宗教の指導者たちが短い宣言を述べたあと署名を行う。

明日の第一部はこちらの [link](#) で、第二部はこちらの [link](#) から配信されます。

補足情報

X のハッシュタグは #algorithethics #RomeCall #interfaith #Alethics #Peace #AIforPeace #Hiroshima #HiroshimaforPeace です。

「ローマからの呼びかけ」について詳しくはこちら：<https://www.romecall.org/>

AI Ethics for Peace is an event co-organized by:



Religions for Peace 
Japan